

# こどもの育ちと学びの政策の融合

教育委員会事務局にこどもみらい部の業務を統合（補助執行）し、子ども関連の施策を一元化  
R8年度から3部体制の新たな教育委員会事務局組織を立ち上げ、こどもまんなかの施策を実現

## Point1

産前から就学後までの子育て相談を  
ワンストップで実施できる体制の整備

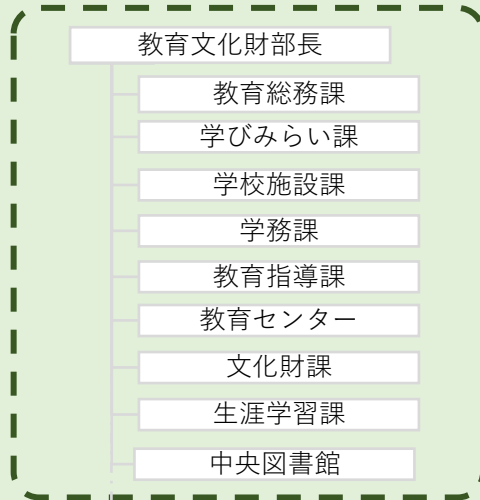
## Point2

いじめ対応等の強化に向け、  
法務担当を新設

## Point3

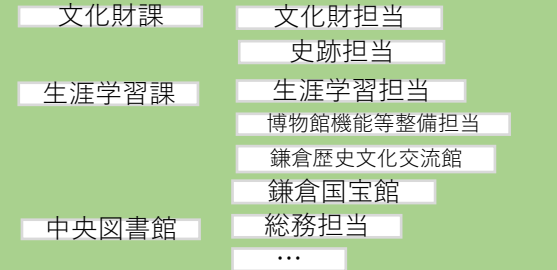
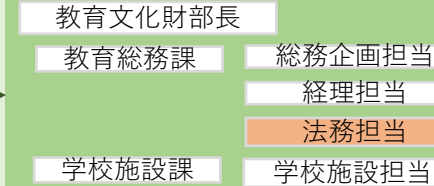
複雑な課題に対応した教職員の適正配置・  
管理のために、教職員担当を課として独立

### 教育文化財部（教育委員会事務局）

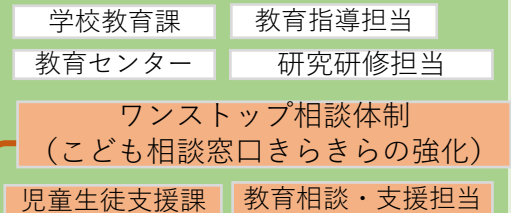
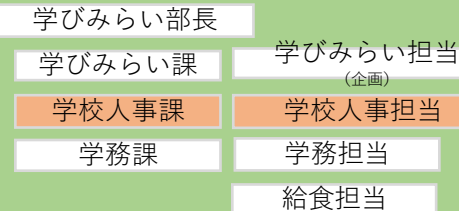


### 教育委員会事務局

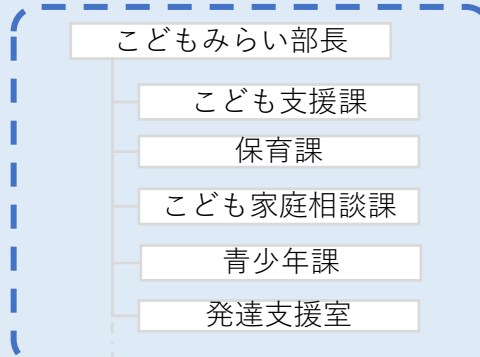
#### 教育文化財部



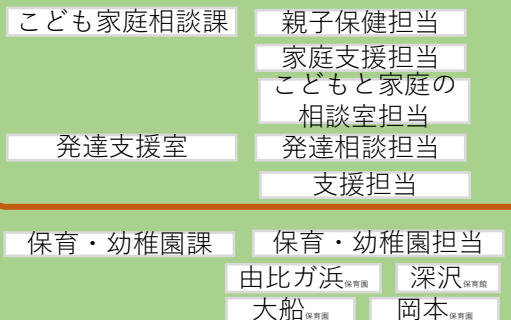
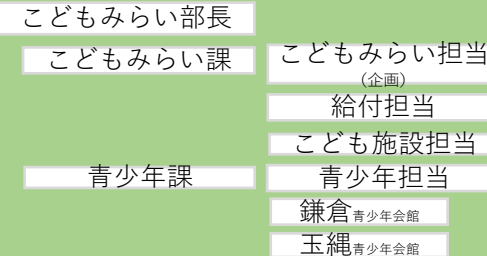
#### 学びみらい部



### こどもみらい部（市長部局）



#### こどもみらい部

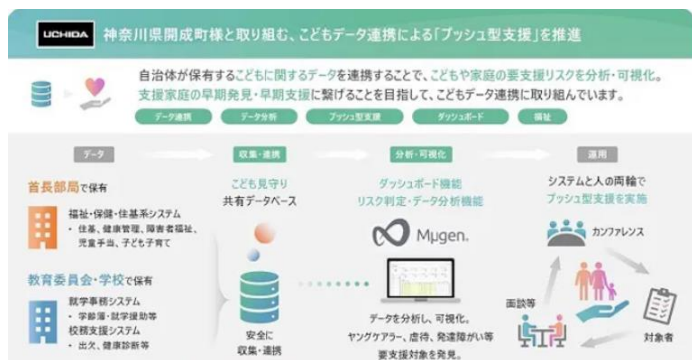


# 予定している具体的な連携施策の例

## 子ども・保護者の相談業務の連携 ／データプラットフォームの開発

- ・ 組織を一体化することにより、個人情報保護の観点から、これまで必要最小限だった組織同士の情報共有を一段深く実施することで、就学前から就学後までの一貫した相談対応と支援を強化。
- ・ 将来的には、これまでの子どもの育ちに関するデータとデータをつなぎ、支援が必要な子ども・家庭の要支援リスクを可視化し、個に応じたプッシュ型の支援を提供。

(参考) 神奈川県開成町の取組



2025年5月31日教育家庭新聞

## 幼保小連携の強化 (スタートカリキュラムの開発)

- ・ 遊びから学び・育つ幼児教育/保育と、小学校教育の接続は全国的な課題。鎌倉市でも教育大綱に基づいた「学習者中心の学び」を進めているが、環境の変化に対応できない児童も存在。
- ・ 組織の一体化により、これまで教員に対する研修が中心だった「幼保小の連携」を一段進め、幼保の関係者の協力も得つつ、小学校1年生向けに鎌倉市独自のスタートカリキュラムの研究を開始。



文科省国立教育研究所教育課程研究センター  
「スタートカリキュラムスタートブック」

## 教育大綱やこども計画等の 有機的な連携

- ・ これまで組織ごとに策定していた方針や計画においても、相互の政策の関係性に留意して計画等を策定。
- ・ 一方で、関係の有識者等の議論などは経ておらず、事務的な組織間の協議による連携に留まっており、関係施策の列挙になっている部分も存在。
- ・ 策定主体となる会議体だけでなく、教育委員会会議含む他の会議体でも事務組織よりも一段高い立場から政策の連動性等も議論して策定。

